

令和8年3月

世田谷区立芦花中学校

校長 風間 浩也

前年度の改善方策について実行した改善結果

1 学習指導について

育成すべき資質・能力の三つの柱のバランスを重視して様々な視点から取り組んできた。数学科、英語科における少人数指導、全教科を通じたタブレット等ICTの活用等個に応じた指導（指導の個別化、学習の個性化）、学校図書館の活用及び状況に応じたオンラインによる家庭への授業配信に重点をおき、工夫・改善を図った授業が展開されるよう計画し実施した。「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」という生徒の評価項目では、肯定的評価が88.8ポイントであった。

2 生活指導について

生徒の自主的、自治的能力の育成に向けて、生徒による学校生活の改善・充実の意識の高揚及び学校のきまり等について生徒に考えさせる機会をつくとともに、生徒会組織の見直しの取組を行い、意欲的な活動が見られた。カジュアルデーの取組をより発展させ、服装を考える週間を設けることなどを新たに取り入れた。「学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」という生徒の評価項目では、肯定的評価が91.9ポイントであった。

3 学校行事について

生徒の取組を前面に出し、生徒の達成感や成就感を味わわせることを重視した創意工夫のある学校行事を企画・立案し、実施した。「学校行事は、楽しい」という生徒の評価項目で肯定的評価が93.9ポイントであった。

4 進路指導について

第1学年のボランティア体験の定着が図られ、第2学年の職場体験、第1、第2学年を対象に実施したプロジョブトーク等を通じて、キャリア教育の系統性を意識し、生徒の勤労観、職業観の醸成や将来の生き方について考える取組を実施するとともに、第3学年では、上級学校を訪問して、高校の教員の話聞く機会や、卒業生の話聞く会、卒業後の進路を具体的に考える取組を実施するなどキャリア教育の充実を図った。「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」という生徒の評価項目では、76.0ポイントであり、一昨年度より11ポイント上昇した傾向を維持している。

5 部活動について

生徒個々が求める部活動を開設できるように、文科系、体育系共に多種多様な部活動を開設し、全教職員で部活動を担当した。また、予算内での外部指導員の導入の充実を図るとともに、部活動ガイドライン等に基づき適正な部活動を実施した。

特定の教員の時間外在校時間が多くなることや生徒数に比べて部活動数が多いため、公式戦に出場するメンバーが集まらない部活動が増えていることが課題である。

6 学校運営について

学校運営委員会、学校関係者評価等を活用し、学校運営に反映させることを通して信頼される学校づくりを推進してきた。「学校の重点目標が明確である。」という地域からの評価項目において、肯定的な回答が91.3ポイントであり、大幅に上昇した。また、「保護者に指導の重点を伝えている。」という項目では、前年度と比較し、21.8ポイント上昇している。

7 広報活動・情報提供について

ホームページによる情報発信とともに、すぐーるや生徒タブレット端末を活用した連絡・広報手段の充実を図った。「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」という地域からの評価項目において、肯定的な回答が、95.7ポイントであった。

8 地域との連携について

今年度は特に地域との関係機関との積極的な連携に力を入れてきた。特に、児童館と連携した取組を充実させ、出張児童館の校内実施、学習スペースの周知などにより、子ども達自身が地域で育まれる機会をもてることを意識して活動した。「地域の人や施設を教育活動に活かしている」という地域からの評価項目において、肯定的な回答が78.2ポイントであった。

9 学校の安全性について

学び舎内の芦花小学校との連携を図り、合同の避難訓練については、欠かさず実施するとともに、セーフティ教室等、安全に対する生徒の意識を高めることができた。また、警察など外部機関との連絡を密にして、最新の情報をもとにSOS出し方の授業を実施したり、防犯対策、事故防止、SNSに関わる事件や事故の防止を図ったりした。「学校は安全性を高めようと地域と協力している」という地域からの評価項目において、肯定的な回答が91.3ポイントであった。

10 学校全般について

発達支持的な生活指導の徹底、関係機関との積極的な連携により、安全・安心な学校生活を送れることを基盤として、学校経営、組織体制の強化及び教職員の資質の向上による学校運営を行い、生徒にとって楽しい、満足感の溢れる学校生活を送れるよう努めた。

生徒・保護者ともに「学校が楽しい」という回答が、生徒が9割、保護者が8割を超え、本校の教育活動への一定の理解と信頼を感じることができた。これに満足することなく、生徒・保護者の期待に十分に応えられるよう、さらなる学校運営、教育活動の工夫・改善に努めたい。